

## 平成 23 年度第 2 回下水道クイックプロジェクト推進委員会 議事要旨

日 時 平成 24 年 3 月 6 日（火）13 時 00 分～15 時 00 分

場 所 財団法人下水道新技術推進機構 8 F 特別会議室

出席者 委 員 長 楠田委員(北九州市立大学)

委 員 高橋委員、長岡委員、藤田委員、小崎委員、佐伯委員、田中委員

---

□ 議 題：

1. 開会
2. 国土交通省挨拶
3. 委員長挨拶
4. 資料の確認
5. 委員紹介【資料 1】
6. 議事
  - (1) 第 1 回委員会議事概要  
平成 23 年度第 1 回下水道クイックプロジェクト推進委員会議事要旨（資料 2）
  - (2) 極小規模処理施設
    - 1) 前回委員会指摘事項に対する報告および今回報告内容（資料 3-1）
    - 2) 社会実験の進捗状況報告（資料 3-2）
    - 3) 社会実験技術の審議・評価（資料 3-3）
  - (3) クイック配管
    - 1) 前回委員会指摘事項に対する報告および今回報告内容（資料 4-1）
    - 2) 社会実験の検証結果報告（資料 4-2）
    - 3) 社会実験技術の審議・評価（資料 4-3）
  - (4) 新たな整備手法に関するアンケート結果について
    - 1) 新たな整備手法に関するアンケート結果（資料 5-1）
    - 2) 新たな整備手法の採用状況に関するアンケート結果（資料 5-2）
7. 閉会

---

□ 配付資料：

- 資料 1 平成 23 年度下水道クイックプロジェクト推進委員会委員名簿／出席者名簿／座席表
- 資料 2 平成 23 年度第 1 回下水道クイックプロジェクト推進委員会議事要旨
- 資料 3-1 前回委員会指摘事項に対する報告および今回報告内容（極小規模処理施設）
- 資料 3-2 極小規模処理施設の進捗状況報告
- 資料 3-3 極小規模処理施設 技術評価書（初期対応の一次評価）（案）
- 資料 4-1 前回委員会指摘事項に対する報告および今回報告内容（クイック配管）
- 資料 4-2 クイック配管の検証結果報告
- 資料 4-3 クイック配管 技術評価書（案）
- 資料 5-1 新たな整備手法に関するアンケート結果
- 資料 5-2 新たな整備手法の採用状況に関するアンケート結果

参考資料 1 極小規模処理施設

□ 議 事（各委員の発言の概要）

（※ 各委員の発言の概要を羅列したものであり、本委員会の統一見解ではありません。）

（1）第1回委員会議事概要

1）平成23年度第1回下水道クイックプロジェクト推進委員会議事要旨（資料2）

・特に意見なし

（2）極小規模処理施設

1）前回委員会指摘事項に対する報告および今回報告内容（資料3-1）

・特に意見なし

2）社会実験の進捗状況報告（資料3-2）

○ 高橋委員

● 二戸市の維持管理費用について、薬品費が高くなっているが、これは膜の洗浄のための次亜塩素酸によるものか。

⇒そのとおりである。（事務局）

● 膜の洗浄は定期的に行っているのか。その頻度は。

⇒二戸市においては、膜の交換を少なくするため、洗浄はこまめに行っている。頻度については、現在把握できていない。（事務局）

○ 藤田委員

● 寒冷地における断熱対策はどのように想定されているのか。

⇒二戸市を除く4町については、地中に処理施設を設置することで、保温（防寒）対策としている。（事務局）

● 地中設置については、維持管理の面でプラスではないものと考えられる。断熱材等での対応も考えられるのではないか。

⇒寒冷地における極小規模処理施設に対する防寒対策にどのようなものがあるか調査する。（事務局）

○ 高橋委員

● 現在、流入水量が少ないので、 $m^3$ あたりの維持管理費用も高いものと想定される。流入水量が大きくなると比例して大きくなるものなのか、それとも、ある流量で一定になるものなのか。

⇒維持管理については、供用開始から期間が短いため、今後の実績を追加調査していきたい。（事務局）

### 3) 社会実験技術の審議・評価 (資料 3-3)

#### ○ 長岡委員

- 接触酸化型と膜分離型を一つの括りで評価して良いか。例えば、適用場所についても、放流先の違いで採用処理方法が異なってくることも考えられる。

⇒現在、形態が似ているということもあり、一緒に整理しているが、処理水質についての取り扱い等、一緒に評価する場合でも区分ができるよう、整理方法については検討していきたい。(事務局)

- 従来工法に比べてとの文言があるが、従来工法については特定した記述が必要ではないか。

⇒従来工法については、括弧書き等で想定処理法について追記する。(事務局)

#### ○ 藤田委員

- 他に転用という意味では、処理施設の地中設置に疑問を感じる。今後の社会情勢に合わせた機動的な対応と言う面では、全体としてより良い方法があるのではないか。ご検討いただきたい。

⇒地中設置の場合における移設可能性等、他への転用との視点での考察を行う。(事務局)

#### ○ 田中委員

- 従来工法における何かを犠牲にしてコスト縮減が図られているものと考えられる。技術評価書においては、何を犠牲にしているか(トレードオフしているか)も示した方が良い。

⇒処理装置については、一定の耐久性を満たしたものとなっているが、一般的なコンクリート躯体との比較でどのような問題があるか、また、装置が簡略化されているところもあることから、運転管理性能の面も含め整理する。(事務局)

#### ○ 小崎委員

- 臭気対策について、汚泥貯留施設の配置や敷地境界からの離隔、汚泥引き抜き作業時間帯の配慮とあるが、もう少し技術的な面で対応できないか。

⇒苫前町については、脱臭までは考慮していないが、カバー等の対応を検討されている。その他、技術的な対応としてどのようなものがあるか整理する。(事務局)

### (3) クイック配管

#### 1) 前回委員会指摘事項に対する報告および今回報告内容 (資料 4-1)

#### ○ 高橋委員

- p54 の委員会指摘事項の指摘者で高橋委員とあるのは、佐伯委員の誤りである。

#### 2) 社会実験の検証結果報告 (資料 4-2)

・特に意見なし

### 3) 社会実験技術の審議・評価 (資料 4-3)

#### ○ 小崎委員

- U字溝で防護した場合の点検孔や取付管の構造はどのようにしているのか。  
⇒点検孔については、脇に公共ますを設置しており、そこからの維持管理を想定している。なお、U字溝は取り外すことにより、緊急時対応も可能である。(事務局)

#### ○ 田中委員

- 広く普及されることが可能な整備手法として、民地活用型下水道を挙げている。クイック配管(側溝活用)については、側溝断面を阻害することから、リスクも考えられるので、民地等を活用することをまず検討した上で、困難であれば側溝を活用するなど整理した方が良いのではないかと。  
⇒リスクを検討した上で、採用することは明記している。ご指摘の内容も含めて検討する。(事務局)  
⇒地域のコミュニティが形成されているところについては、民地を活用できるケースもあると思われる(楠田委員長)。

#### ○ 楠田委員長

以上の質疑を踏まえて、クイック配管(側溝活用)については、技術評価書に留意事項を追記するという事で承認とする。

#### (4) 新たな整備手法に関するアンケート結果について

- 1) 新たな整備手法に関するアンケート結果(資料 5-1)
- 2) 新たな整備手法の採用状況に関するアンケート結果(資料 5-2)

・特に意見なし

以 上